

東郷平八郎と靖国神社



しくみ

- 靖国神社 4.16km - 東郷神社 - 宮中三殿 4.16km
- " " " 増上寺 4.16km
- " " " 千鳥ヶ淵砲台跡 4.16km
- " " " 岩倉具視旧居 4.16km
- " " " 日本バプテスト同盟 4.16km
- " " " ザ・プリンス パークタワー東京 4.16km
- 東郷神社 4.16km - 宮中三殿 - 上野東照宮 4.16km
- " " " 摺鉢山古墳 4.16km

東郷神社

東郷平八郎が昭和9年（1934年）5月30日に亡くなると、全国から海軍省に東郷を顕彰する神社の創建の要望と献金が相次いだ。当時の海軍大臣大角岑生が財団法人東郷元帥記念会を設立し、寄せられた献金によって神社の創建が計画された。昭和12年（1937年）9月に地鎮祭、昭和15年（1940年）5月27日（海軍記念日）に御鎮座祭が行なわれ、同時に府社に列格した。昭和20年（1945年）には別格官幣社への昇格がほぼ決まりかけていたが、東京大空襲によって社殿が焼失し、昇格は断念された。戦後になって復興の機運が高まり、昭和33年（1958年）に奉賛会が結成され、昭和39年（1964年）に社殿が完成した。平成元年（1989年）2月3日には東郷神社爆破事件が起きている。

東郷 平八郎（弘化4年12月22日（1848年1月27日） - 昭和9年（1934年）5月30日）は、日本の幕末から明治時代の薩摩藩士、軍人。階級は元帥海軍大将。日清戦争では「浪速」艦長として高陞号事件に対処。日露戦争では連合艦隊司令長官として旗艦「三笠」で指揮を執り、「陸の乃木 海の東郷」「アドミラル・トーゴー」「東洋のネルソン」と英雄視された。各地の東郷神社に名を残す。

死後東京都渋谷区と福岡県宗像郡津屋崎町（現福津市）に「東郷神



社」が建立され神として祭られた。ただし東郷自身は生前乃木神社建立の時、(陸軍に対抗するために)将来自身を祭る神社の設立される計画を聞いて驚き、「やめてほしい」と強く懇願したが、願いは聞き入れられず結局神社は建立されている。墓所も生前、母親の益子の眠る青山墓地への埋葬を希望したがこれも聞き入れられず多磨霊園に埋葬されることとなった。また銅像が長崎県佐世保市の旧海軍墓地東公園と鹿児島県鹿児島市の多賀山公園にある。東京都府中市には別荘地に建立された東郷寺があり、桜の名所である。 東京都渋谷区神宮前1丁目1-5-3

靖国神社

祭神は、幕末から明治維新にかけて功のあった志士に始まり、1853年(嘉永6年)のペリー来航(所謂「黒船来航」)以降の日本の国内外の事変・戦争等、国事に殉じた軍人、軍属等の戦没者を「英霊」と称して祀り、その柱数(柱(はしら)は神を数える単位)は2004年(平成16年)10月17日現在で計246万6532柱にも及ぶ。

戊辰戦争終戦後の1868年(慶応4年)旧暦6月2日に、東征大総督有栖川宮熾仁親王が戦没した官軍(朝廷方)将校の招魂祭を江戸城西丸広間において斎行したり、同年旧暦5月10日に太政官布告で京都東山(現京都市東山区)に戦死者を祀ることが命ぜられたり(現京都霊山護国神社)、同旧暦7月10・11の両日には京都の河東操錬場において神祇官による1853年(嘉永6年)以降の殉国者を慰霊する祭典が行われる等、幕末維新期の戦没者を慰霊、顕彰する動きが活発になり、そのための施設である招魂社創立の動きも各地で起きた。それらを背景に大村益次郎が東京に招魂社を創建することを献策すると、明治天皇の勅許を受けて1869年(明治2年)旧暦6月12日に現社地での招魂社創建が決定され、同月29日(新暦8月6日)に五辻安仲が勅使として差遣され、時の軍務官知事仁和寺宮嘉彰親王を祭主に戊辰の戦没者3,588柱を合祀鎮祭、「東京招魂社」として創建された。ただし、創祀時は未だ仮神殿の状態であり、本殿が竣工したのは1872年(明治5年)であった。



1865年、長州藩が奇兵隊の死者を祀るために建立した桜山招魂社が、靖国神社の起源である。その後、禁門の変、戊辰戦争などで戦死した長州軍の兵を合祀。明治維新後、明治天皇の上京にともない、天皇の錦の御旗が与えられることで、官幣の神社として靖国神社が設立された。

以上の経緯を踏まえると、靖国神社は、明治維新以降、実権を握った長州閥の意向が色濃く反映された神社だと言える。事実、会津藩家老を先祖に持つ右翼の大物・田中清玄は、靖国神社を「長州藩の守り神にすぎないもの」と切り捨てたという。

東北地方は、仙台第二師団のガ島玉砕、第36師団(雪部隊)のニューギニア玉砕はじめ、戦没者の多い地域だが、「靖国神社に参拝すべきだ」とする意見には異を唱える人が多い。「朝敵は弔わず」、これは賊軍に対する明治政府の一貫した姿勢だった。東北(奥羽列藩同盟)の犠牲者をはじめ、彰義隊、西南の役の西郷隆盛側などは、靖国はもちろん、日本各地の招魂社(護国神社)にも祀ることはなかった。

そして、薩長中心による富国強兵政策の一貫としての軍事強化推進が、その後の日清・日露・大東亜戦争につながったと見るのが自然だし、靖国はその精神的支柱として存在した。今なお、“明治政府(官軍側)は素晴らしかったと絶対視”し、賊軍とされた地域のインフラ整備の後回しなど、東北蔑視政策が続くかぎり、多くの東北人が心から靖国神社を参拝する気持ちにはならないだろう。

そこには、薩長が天皇を人質同然にした当時の、「天皇陛下＝靖国神社だ。文句あるか」という、天皇の威光を利用するだけ利用した空気が流れている。それに比して、京都守護職を務めた会津藩主・松平保容は、孝明天皇から辰翰を賜り、正に官軍だった。明治26年12月5日松平保容公死後、辰翰の事実を知った明治政府は、この内容が公になれば、自分達が嘘で固めた歴史観が根底から覆えるとあわてた。

そして、明治政府は密かに大金で譲渡するように圧力をかけたが、会津藩・松平家はこれを頑強に拒否した。何度でも繰り返すが会津藩側が官軍、薩長土肥(明治政府)側が賊軍だったのだ。

それに薩長や岩倉具視らの戦略による錦旗の偽造や、孝明天皇の毒殺説も有力だ。これが薩長は「偽（にせ）官軍」と言われる理由であり、偽（にせ）官軍が天皇陛下の威光を利用するために作ったのが「靖国神社」という図式になる。

日本を再び戦争をする国家にさせようと企む人達にとっては「国のために命を捨てさせる」ための装置としてこの神社は象徴的な大きな意味をもつものなのでしょう。

<http://z-shibuya.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-e1bb.html>

千代田区九段北 3 丁目 1-1

増上寺

空海の弟子・宗叡が武蔵国貝塚（今の千代田区麴町・紀尾井町あたり）に建立した光明寺が増上寺の前身だという。その後、室町時代の明德 4 年（1393 年）、浄土宗第八祖西誉聖聡（ゆうよししょうそう）の時、真言宗から浄土宗に改宗し、寺号も増上寺と改めた。この聖聡が、実質上の開基といえる。開基聖聡の弟子には、松平氏宗家第三代松平信光開基の信光明寺開山釋誉存問（そんげい）や、松平氏宗家第四代松平親忠開基の大恩寺開山了暁（りょうぎょう）慶善がおり、また松平親忠の第四子で、浄土宗総本山知恩院 25 世の超誉存牛や、徳川將軍家菩提寺大樹寺開山の勢誉愚底（せいよぐてい）はいずれも聖聡の孫弟子であり、中世から松平氏や徳川氏とのつながりが深かった。風水学的には、寛永寺を江戸の鬼門である上野に配し、裏鬼門の芝の抑えに増上寺を移したものと考えられる。明治時代には半官半民の神仏共同教導職養成機関である大教院の本部となり大教院神殿が置かれた。のち明治 7 年（1874 年）1 月 1 日排仏主義者により放火される。徳川幕府の崩壊、明治維新後の神仏分離の影響により規模は縮小し、境内の広範囲が芝公園となる。太平洋戦争中の空襲によって徳川家霊廟、五重塔をはじめとした遺構を失う大きな被害を受けた。東京タワーの建設時、増上寺は墓地の一部を土地として提供している。

東京都港区芝公園 4 丁目 4-7-3 5



岩倉具視旧居

大正 15 年ここに移築される前は麴町にあった。元々は皇居・馬場先門にあった邸宅ですが岩倉さんの死後、皇居前広場整備のために売却され各地を転々としていたとか。内部は非公開。玄国寺境内。

岩倉具視日本の公家、政治家。雅号は対岳。謹慎中の法名は友山。補職・位階・勲等は、贈太政大臣贈正一位大勲位。維新の十傑の 1 人。文政 8 年（1825） - 明治 16 年（1883 年）

玄国寺近くにある諏訪神社の別当寺だった。現在は独立しているが、かつては同社と一体となって活動していた。慶長 6 年（1601）創建という伝承がある。墓所内部には田植地藏と呼ばれる石の地藏尊を祭る堂がある。田植え時期になると、この地藏が旅僧の姿になって田植えを手伝ったところからこう呼ばれるようになった。東京都新宿区高田馬場 1 丁目 1 2-1 0



千鳥ヶ淵砲台跡

昭和 19（1944）年、皇居及び周辺施設を B-29 による空襲から防衛するために構築された高射機関砲の台座跡。千鳥ヶ淵陣地に配置されていた部隊は「近衛機関砲第一大隊」。天皇の親衛隊である近衛師団隷下の部隊で、人員は約 800 名、皇居周辺の防空を担当していた。しかし、高高度を飛来する B-29 には、有効な迎撃を行うことができなかった。

東京都千代田区北の丸公園 1



日本バプテスト同盟

プロテスタント系バプテスト派の諸教会・団体の協力組織である。1958年に、アメリカン・バプテスト系(現在の、米国バプテスト同盟。)加盟教会の一部が、日本基督教団を離れて結成する。全国各地に、約75の教会・伝道所がある。関東学院(横浜・かつての、教派神学機関。)が、同じ系列である。日本基督教団新生会との関係は続けられている。かつては日本バプテスト東部組合を組織しているが、1940年頃位に日本バプテスト西部組合(現在の日本バプテスト連盟)と「合同」して日本バプテスト基督教団を結成し、その後は日本基督教団第四部に改めて「合同」している。

東京都新宿区西早稲田2丁目3-18



ザ・プリンス パークタワー東京

2005年に徳川家霊廟跡に存在した「芝ゴルフ場」跡地に「東京プリンスホテル パークタワー」として開業。丹下憲孝(丹下都市建築設計)の設計で、客室内装は村野・森建築事務所。西武グループ。

東京都港区芝公園4丁目4-8-1



備考

英雄「陸の乃木 海の東郷」。海軍大将東郷平八郎を祀る東郷神社に集まった気を、英霊の靖国神社を同距離に置いて皇居宮中三殿に引き寄せる。皇居は同じく靖国神社を使って伊勢神宮内宮からも気を引き寄せている。興味深いのは、千鳥ヶ淵砲台跡とも同距離。東郷+靖国+皇居の力を借りてB29を迎撃しようとした。近頃になって日本バプテスト教会も加わった。キリスト教会はなにかと関わってくる。プリンスパークタワー東京はもともと徳川家霊廟だった。「タワー」は「塔」。東京タワーやスカイツリーしかり霊的な力を持つのだろう。

- 東郷神社 4.16km - 宮中三殿 - 上野東照宮 4.16km
- - 摺鉢山古墳 4.16km



上野東照宮

旧社格は府社。正式名称は東照宮であるが、他の東照宮との区別のために鎮座地名をつけて上野東照宮と呼ばれる。徳川家康（東照大権現）・徳川吉宗・徳川慶喜を祀る。寛永4年（1627年）、藤堂高虎が上野の高虎の敷地内に創建した。社伝によれば、元和2年（1616年）、危篤の家康から自分の魂が末永く鎮まる所を作ってほしいと高虎と天海に遺言されたという。現在の社殿は慶安4年（1651年）に家康の孫である徳川家光が改築したもので、関東大震災や第二次世界大戦でも消失を免れている。

東京都台東区上野公園9



摺鉢山古墳

前方後円墳。墳丘は遺存状態が悪く、そのため円墳とみる説もある。残存長70メートル、後円部径43メートル、高さ5メートル、前方部幅23メートル。葺石は不明で、埴輪片が採取されている。かつてこの古墳を中心に古墳群が形成されていたが、ほかの古墳はすべて破壊された。

丘上は、かつての五條天神社、清水観音堂鎮座の地であった。五條天神社の創立年代は不明であるが、堯恵法師は『北国紀行』のなかで、文明十九年（一四八七）に忍岡に鎮座する五條天神社を訪れた際、

契りきて たれかは春の初草に 忍びの岡の 露の下萌

と、うたっている。現在、上野公園忍坂脇に鎮座。清水観音堂は、寛永八年（一六三一）寛永寺の開祖天海僧正により建立されたが、寛永寺根本中堂建立のため、元禄七年（一六九四）現在地に移転した。現在、丘上は休憩所となっているが、昔のまま、摺鉢の形を保っている。

東京都台東区上野公園5-20

備考

140 度位の広がりとは極端に守らせるしくみ。国民の支持を集めていた東郷平八郎を家康の東照宮とつなげて天皇家の守りとした。第二次世界大戦の最中、パールハーバー攻撃の前年に東郷神社は建てられている。神社創建の計画そのものは生前からあって東郷は強く拒否している。死んでもなお利用され、役割を終えることはできずにいる。